

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
桜小 7月8日	1	他の会場では参加者から色々な意見が出されていると思うが、朝里地区では小が4校から3校へ中が3校から2校なので施設的には望洋台が新しく、校舎は望洋台で校名は桜とすることがあると思っているが。	<p>昨年の地域懇談会より会場数も多いことから、2/3を終え、500人を超えて意見もたくさんもっている。校名について他の会場でも質問があったが、統合の組み合わせや統合の場所がどこになるのかということは来年度以降の議論になるが、地域の皆さんにどういう名前がふさわしいか協議してもらおう機会を設けていきたい。</p>
	2	耐震工事の予定と全体の予算について説明してほしい。	<p>今は耐震診断が終わった段階だ。次にどのような工法をとるかを実施設計で決めて、実際の工事に入っていくことになる。工事については国の予算にもよるが、来年の雪が降る頃までには工事を終えたいと思う。</p> <p>予算額については、桜小の耐震診断が255万円程、実施設計は350万円程になる。工事費はまだ具体的には出ない。</p>
	3	計画期間15年は長いという印象だ。少ない費用で良い教育が受けられる環境となるなら積極的に協力したい。大きな反対はあったか。	長い歴史の中で学校が果たしてきた役割を十分に考えてほしいという意見は学校規模の大小に関係なく意見として出ている。計画期間についてだが、前期に該当していても8年後に一斉に行うということではなく、地区ごとに一定の合意があれば進めていくということ。後期についても合意があれば同じように考える。41校をブロックごとで考えれば21校にするのだから相当の時間は掛けていかなければならないと思う。
	4	22年度以降の協議が地区で合意に至らない場合はどうするのか。	まずこの計画で小樽全域の基本的な考え方を示して、その中で御協力をいただくというスタンスで議論をさせていただきたい。
望洋台小 7月13日	1	①計画期間について、前期の地区は平成29年度まで後期は36年の間までにすべての統廃合を終わらせるということか。②児童数の推計について、この計画は前期でさえ平成29年度までなのに教育委員会として26年度までしか児童生徒の推計をしていないのか。③12P①の中で、「新設校として設置する新設統合も視野に入れて考えます。」とする一方で説明ではそれは経済的に厳しいと言っているが、矛盾していないか。	①前期の最終年にすべて統合するということではなく、その期間の中で統合するということ。対象校が多いので、ある程度の時間の違いはある。後期についても最終年次までに終わらせるというのを計画の目標にしている。②今回この計画を教育委員会で立てるに当たっては、昨年生まれた0歳児が小学校に入学する6年後の26年度まである程度堅い数字を基礎として推計数値として使っている。大きな変動があれば見直す。③新設統合というのは統合する対象校が、例えばA校B校を対象に統合する場合、一旦両方を閉校にする形にして新たに校名の変更も含めて新しい学校を作るということになる。その場合、校舎は新しくなるかもしれないが、既存の今ある学校を改修してA+B校にするという場合もある。
	2	町会長に聞くと連絡ないとの話だが、この説明会の開催についての周知はどのように行ったのか。	説明会の開催について日程と「お知らせ」をすべての町会に回覧を依頼したほか、小中学校のPTAと幼稚園、保育所の全家庭に配布し「町会長と市との連絡会議」でも日程表を配布した。今後もPRに努める。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
望洋台小	<p>3 ①この基本計画が策定されて実施に移る過程について教えてほしい。②この計画を作るに当たって、市で払えるコストがどれほどなのか。③この計画では子供の徒歩通学を確保するのか。④財政再建団体になった場合どのような想定をしているのか。</p>	<p>①13P(2)にあるが、まず統合の組み合わせと統合校の位置をどこにするのかについて議論し、位置が決まれば通学区を決めて次に統合までの準備期間などスケジュールについて話し合い、通学距離が長くなった場合はスクールバスや通学助成なども考えて進めていく。計画期間が前期8年、後期7年と極めて長いので前期の地区であっても8年後にすべて行うのではなく、協議が必要な事項に合意が得られたところからやっっていくと思う。②学校建設で言えば、今ある41校を今後もち続けるとなると校舎の耐用年数を50年として毎年1校のペースで改築していかなければならない。それはできないということで学校再編を進めていかなければならない。1校改築するのにかかるコストは菁園中の場合、校舎と体育館で17億程の事業費になり、国の補助や後年度の交付税を考えると実質の持ち出しは7億円程になるが、もちろん色々な補助制度や規模にもよるので色々なパターンがあるが、菁園中のモデルではそのようになる。④自治体の財政状況の健全度がある水準になると国からレッドカードやイエローカードが出されるという言い方で表現されるが、そうなった場合は再建計画を作らなければならない。小樽市の場合19年度決算では一般会計で12.9億円の累積赤字があったが、20年度単年度で6億円ほど黒字になる見込みなので若干減って約6.8億円の累積赤字になると思う。仮に再建団体になったから国は学校をなくせとは言わないが、夕張では再編計画で学校数を減らしたと聞いている。</p>
	<p>4 統合校の位置を決める際は、統合後の児童生徒数に対して校地面積が狭かったり、通学距離についても校区が広がることで通学の安全の確保がなされないことのないようにするとともに、耐震工事以外にも教育環境整備にしっかりと取り組んでほしい。</p>	<p>③ブロック別に望ましい規模から見た学校数は全市で41校から21校になり、単純に半分ぐらいになるので通学区は当然広がることになる。通学区が倍になるところ、場合によってはそれ以上のところもあるかもしれないので徒歩通学を前提にしていない。学校統合の結果、通学先の学校が徒歩圏内でない場合は児童生徒の負担を軽減するため、バス利用等の対応を行うのが基本的な考え方である。</p>
	<p>5 再編と耐震は別の考えで進めるのか。3つの中学校が2つになるこの地区で桜町中の耐震化に着手したということは望洋台中はどうなるのかと保護者は不安になる。</p>	<p>統合校の位置を決めるときは、例えばABCと学校があって単に位置が真ん中が一番良いという議論だけでなく、校舎やグラウンドの状況、バス停との距離や除雪の体制など色々な要素を含めた議論を来年度から具体的にしていきたい。</p> <p>耐震化については昭和56年以前の建築基準法で建てられた建物が100棟近くあるため、これを一定の順番でやっっていかなければならない。優先度ランクが①の学校は再編後学校の場所として残っても築年数を見る限り改築をしなければならないが、優先度ランク②の学校で一定規模のところから進めていく。朝里小、桜小に続き桜町中も将来的に1学年2クラス以上あるということから耐震化に着手したが、耐震化を行ったから桜町中を残して望洋台中をなくすということではない。</p>

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
望洋台小	6	(意見)準備期間を設けるということは分かるが、計画期間が長すぎる。耐震化の問題が緊急性があるにも関わらず、再編とリンクさせて考えることは万が一の時非常に危険ではないかと思う。児童生徒が減り統廃合は必要なので、再編計画を進めるに当たっては一定規模の学校が必要との理念に基づき、例外を作らず邁進してほしい。	例外を作らないという意見だが、小学校の計画を取り下げた経過がある。今回は41校全部でどの地区も同じスタンスで議論していく。
豊倉小	1	今回の再編では予算削減の金額が分からないが、例えば朝里地区で統廃合した場合に予算の面ではどうなるのか。どこを論点にしているのか説明してほしい。	予算削減を目的に学校再編を行うことではない。それは理解してもらえと思うが、基本は少子化だ。中心部でも規模が小さくなっている。そういう全体的な傾向がある。もう一つは学校が古くなっていることがあり、改修や建て替えの経費面も考えていくこと。そういうことから、子供が減って今の学校配置のままということではいかない。将来を見据えた学校配置はどうあるべきかという議論が出发点。このブロックでいくら予算が浮くかという試算もしていないし、そういう発想ではない。
6月29日	2	今後、新幹線が通ることや望洋台地域が広がることなど市全体の人口推移を踏まえたなら学校数を削減することが適正かどうかが見えない。市がどういう方向性で計画を持ち、市街地、観光地、この朝里川温泉地区は発展する可能性がある。商業地域や新幹線の駅で変わってくると思うが、その辺は盛り込まれているのか。	資料編2PにS24からの変化グラフを見ると最近減り方が鈍化しているが全体的に右肩下がり。1PはH10からの出生数だがH16に段差がある。900人から1000人が700人台になり、何年か後に小学校に入ってくる。それが見えてきている状況だ。話のように、社会状況や経済情勢の変化や観光という特徴と交通アクセスの変化ということもあるが、今回の適正化は出生数が700人台の時代の中で、現実的にそれを踏まえた学校配置を考えていかなければならない。
	3	計画はH36年度までだが、素案ではH26年度までの数字。ここは札幌に近く新幹線駅にも近いので違う展開もある。もう少し先の数字等を盛り込んでもらわないと、目先の状況だけでは困る。そこまでは分からないのか。	小中学生のピークはS33年で今年は8823人で学校数は大きな違いはない。市では今年の4月から第6次総合計画をスタートした。人口をどう見るか議論されたが、人口減少の歯止めの対策はとるものの10年後の推計は出していない。日本中で人口減少し、特に北海道は全国より高い減少率という中で将来推計することは難しい。国の機関では30年後の小樽市は10万人を切る推計で、総合計画では現状の14万人程度を維持し、伸ばす方策を考えるとしている。素案では2月時点で、H20年に生まれた子供が入学するH26年度まで出している。中学校ではH33年度推計まで出せるので、そういうことを踏まえた学校の再編。9Pで再編計画の期間を15年としているが、児童生徒数の大きな変動、国の制度改正等の場合は計画を見直す。開発行為で多くの人が住むというような変化に合わせた見直しはする。
	4	(意見)まちづくりの会などの行事があり、この地域がもっと活性化すると思いき消極的な考えはもっていない。市全体がそうだから地域も同じようにとは考えたくないの意見述べた。	

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
豊倉小	<p>5 これから豊倉小に入学するが、12～18学級の基準に当てはまらない。存続の可能性があるのか、吸収されるのか。</p>	<p>他の会場でも「この学校は存続するのか」という同様の質問があったが、学校再編の考え方が基本計画だ。市内41校の配置が、年間生まれる子供が700人時代に入るとときにそのままよいかというのが議論の出発点。数の推移、学校施設の状況、ブロック内でのバランス、40年、50年という将来も見た学校の場所ということも議論しようというところまでが基本計画だ。具体的に豊倉小が20人台の人数なので統合するのかということではない。ブロックの条件から4校だが3校でどうかという考え方で、条件や要件を話し合う。規模が小さいという1点だけで議論は進まない。大きな観点で中学校も含め22年度以降議論する。6ブロックのうち、多くの学校が小規模になっている場合先に話し合いをした方が良くと考え、前期に検討するブロックに指定した。このブロックは児童数、施設の状況を加味すれば前期ではなく後期の中で検討する。</p>
	<p>6 説明を聞くと、財源が厳しくなり、1学級30人となると、複式学級、少人数学級は地区で校数を決めると誰が見ても統廃合の俎上に上り吸収合併されると思うのは素直な受け止め方だ。厳しいのは分かるが財源も一つの財産。教育は国家百年の計と言われ、少人数学校、特色ある学校、保護者が残してほしいという学校は、できるだけ地域の意見を聞き、学校教育推進計画でもうたわれているが特色を生かし信頼できる学校を築いてほしい。子供たちがいることで地域が力をもらっている。保護者、地域、住民の意向を斟酌してほしい。</p>	<p>(補足)30人学級のことが意見の中であったが、8Pに少人数教育への取組について書いているように、学校規模の適正化により北海道の研究事業やティームティーチングを取り入れるが、学校再編に当たって30人学級を一緒にやるような制度改正ではない。</p> <p>「川辺の小径」など豊倉小でも特色ある学校の取組がある。ただ、学校の大小、児童数の多少によって特色があるかないかではない。各学校でも特色ある学校づくりに先生や子供、地域が努めている。この学校の取組は続けてほしいが、統合が進んでも学校や地域との協議の中で、入れていってほしい。</p>
	<p>7 PTA会長と「豊倉小学校を守る会」の立場も含めて話す。この学校を残したいと思っているが、何が何でも絶対にか、他の人に不利益があってもというようには思っていないことは理解してほしい。再編計画を読むと、小4校が3校、中3校が2校なので、小は豊倉小、中は望洋台中のイメージを持つ。そのように決まっていなくても、今年も去年も入学者は3人。上の子供の同級生は7人いたが、7人ぐらいは子供同士の間関係でちょうど良いと思うので、この学校に通わせている。ただ今年は男子だけの3人なので、男の友情しか育めず可哀そう。再編の話し合いが長くなっていることの影響が出ている。そういう意味で、この学校がなくなる場合でも、15年の期間の中で心の切り替えも可能だと思うので早く決めてほしいというのが率直な意見だ。毎年2、3人では学校として機能しないので、地域の子供が(迷いながらも)朝里小や望洋台小に行くことのないように(計画を)早く出してほしい。どの位の時期にはっきりするのか。</p>	<p>豊倉小は昭和20年代から50人から30人程度で推移している。祝津小が市内で一番小さく、多いときは何百人もいたので少子化を実感するが、この学校はその位で推移してきた地域だ。指定校変更は学校が小さくなったからという理由ではない。出入りが3人ずつなのでそれぞれの事情の変更だ。市全体でS30年代41000人いたが今は9000人を切っている中で41校を持ち続けることにはならない。来年以降具体的な話をするが、朝里地区は小さな学校がたくさんあるわけではないので前期ではない。一方では、この後も入学者が2、3人が続き、全部男子、女子の状況も出てくる。そういう状況で、後期の位置づけなので、地区実施計画は8年後という考え方になるが、現状の子供の推移を見た議論は22年度以降していく。このままでは統合を考えようという議論や学校の歴史や地域のつながりが大事だという意見もあるだろう。この地区の特徴は中心部のように学年単学級の小規模校が点在するのではなく、小樽では規模が大きい朝里小や桜小の中でこの規模が小さいという特殊なところなので、この地区の現状を踏まえた議論をする。今回の計画は、市全域の学校の配置状況から取り組む時期を前後期に分けているが、22年度からの議論の中で、会長の意見も含めて意見交換したい。</p>

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
豊倉小	<p>8</p> <p>前の計画では通学距離を4kmと定めたが、今回はない。通学については心配で、豊倉小がなくなり望洋台に通学となると裏道は通らせたくない。距離についてどう考えるのか。生徒が少ないと教育しづらいとあるが、今の子供は経験が不足している。豊倉の子供は全くそのようなことはない。大勢の中では、マイクの前でしゃべる、リーダーシップをとる、裏方をやるという役割分担が埋没し、経験不足を生じるという点が、(素案の中では)抜けている。後期の議論だとしてもそれを考えてほしい。</p>	<p>H11年の小・中学校適正配置計画実施方針で通学距離は4kmを超えないとした。中学校と小学校の実施計画の時には小2km、中3kmと条件を緩和したが、実施方針は4km、6kmが目安だった。今回の計画では距離要件は盛っていない。41校の再配置で距離要件を先に言うとそれだけで検討から除外することになる。再配置で通学距離が長くなって交通事故以外にも不審者の問題がある。スクールバスや路線バスの助成制度を使う前提で、通学区域は可能な範囲か、支障が出ないかという発想で考えたい。今の意見にあるように望洋台に抜ける時はどうか、朝里との関係で3km、4kmあるがどうかというような議論は、市内で他にも出てくると思うが、具体的な統合の組合せ、通学区域をどうするか次の段階で、安全の担保という議論で詰めていく作業になる。</p> <p>子供同士の生徒指導と教育環境だが、友達同士でうまくいかず小規模校に転校した例があるが、元の学校は学年1クラスの学校だったので、2クラス以上あればクラス替えて解消できたのではないかという事例もある。小規模校ではいじめも不登校も全くないわけではなく、学級としてうまくいかない例もある。一定規模では学習面の話し合い活動や作業学習の活動等では、これは6人で、これは30人でというように様々な集団を使いながら、集団で考えを深め子供同士で練り合っ社会性や子供同士の葛藤、意見のぶつかり合いなど互いに高め合うことができる。生徒指導では、ある程度の規模があればいくつかの集団の中に自分の居場所を見つけられる。きめ細かな指導が小規模では可能だが、これからの能動的学習の中では一定規模が必要。少人数の良いところは道の制度を使いながら(統合で規模がある程度になっても)補っていきたい。</p> <p>3、4年前にこの学校の発表会を見た。他の学校では資料を読みながらの発表がほとんどだったが、この学校は何も見ずに発表していた。普段から考えさせる時間を与えた結果だと聞いたが、去年などの総合的な学習の発表でも受け継がれていた。総合的な学習のねらいは、6、7人グループで調べ学習をして、それを一人ひとりが発表することなので、先を行っていることだ。このようなことは、1学年2学級以上の学校でも広がるように願い、各校のこのような素晴らしい取組を紹介し、そうなような努力をしている。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
豊倉小	<p>9 以前、朝里の校区から、授業の内容に不満があったのでこちらに土地を買い移った。先生方が子供が理解する前に進み、流れ作業の授業だった。子供たちは授業が分からないので寝るしかなく、6年生は半分くらいそうだ。この子供の目がきれいで感動した。6年間育てられたら、中学校、高校、社会に出ても通用すると思っている。ここがなくなる前提にしないで、他の小学校から呼ぶ、豊倉をベースに望洋台や朝里の子を持ってくることはできないか。</p>	<p>意見に関連する制度として、保護者が特徴ある学校を希望する「特認校制度」、通学区域を越えて一定の人数の枠内で自由に選択できる「学校選択制」、全国的には「山村留学」。山村留学は都会から自然に恵まれた環境で育てたいというもので、里親や寄宿舎を地元が提供するなど受け入れ体制が必要で難しいと思うが、このような制度が考えられる。今回の再編計画では最終的には通学区域を再編成し、一定の規模の中でどういう教育活動を展開するかという考え方なので、今紹介した制度を15年計画の中で取り入れると制度設計が不安定になる可能性があり、取り入れにくい。他の校区から呼び込むことでは、通学区域を広げ、1学年17人以上になれば複式を単学級になるという考え方もある。どの程度でそうなるか今は分からないが、宏楽園より向こう、望洋台側では望洋台小の近くまで行くと想像されるが、来年度からのブロック協議では意見も踏まえてそういうシミュレーションも考えたい。ただ、率直に難しいという気はするが。</p>
	<p>10 (意見)この地域は、朝里や望洋台に統合されると地域活動は変わってくる。市の担当者が来ていないが、教育委員会の方針ではこういう形になると思うが、地域と考えると教委だけの話ではない。ここは、「小学校を中心とした地域」だ。単純な学校統廃合ではなく地域の問題で市も参加すべきだ。これからの方向性はある意味教育委員会は関係ないことで、人口動向、開発が絡み政治的な部分もある。規模・配置の適正化と言われてもピンと来ず、小学校がなくなるという話は、子供が向こうに行くというだけの話ではない。教育委員会の話は分かるが、市として取り組むことなので地域を説得するには不十分。学校が一緒になった方が良いという人もいるが、ここを地域として見てほしい人もいる。住民として子供だけの話で考えていない。</p>	
	<p>11 素案では15年で20校減るが、過去のいつ頃の規模になるのか。</p>	<p>S24年からの資料を持ってきているが、戦後できた学校もあるが、なくなった動きもあり、学校数の大きな変化はない。</p>
	<p>12 (意見)20校減るので相当な減り方だ。地域的には小樽も広がっており、学校の数との整合性で、地域のことを強調する意見もあるので、矛盾がないか考えてほしい。</p>	

朝里ブロック

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
朝里小 7月6日	1	計画では1学級30人としているが、計画期間の中で40人学級の国の考え方が変われば計画自体を見直すのか、また通学に関してスクールバスや定期代の補助等について考えているのか。	<p>通学に関しては、現状でも一定の距離を条件としてスクールバスの導入や路線バスの定期代に対する全額助成を行っている。今回の学校再編でも統合により通学距離が長くなった場合はこのような対応で考える。</p> <p>全国の教育長の会議でも30人とはいかないが、35人学級の要望を出している。現状では北海道が一部の学年について35人学級を研究事業として行っているが、国に対して引き続き要望していかなければならないし、実現してほしい。</p>
	2	朝里地区は後期に当たり、実際に話し合いを進める時には、今の保護者はいないだろう。PTAでも引き継ぎできるものではないので、その時にはもう一度教育委員会から話をしてもらいたい。	22年度には前期後期を問わずそれぞれのブロックの考え方や話し合いをしていこうと思っている。それだけで終わりということではなく全体の進捗状況も含めて市民の皆さんに情報公開をして意見を聞く体制は継続する。
	3	(意見)自分たちが当事者になるという切迫感がなければ説明会に人は集まらない。回覧板を回せば情報が行きわたるというのは大きな間違いで、手を替え、品を替え説明をした方が良い。	
桜町中 5月27日	1	前期統合でないので危機感がない。小規模校の説明会に多く集まると聞く。会場は集まりやすい場所を選んだ方が多くの人意見を聞けたのではないか。(素案で後期となったので)在学中に統合がないので地域の視点から関わる。少子化を踏まえ30人学級が理想だが、予算の問題もあり現状の中で目の届く指導、心を育てる教育をしてほしい。将来推計で、この地区の検討開始時期の人数把握はできているのか。	今回はH26年度推計でおおよその数字を見ている。去年生まれた子供が6年後に小学校1年生。口頭で、今年の3月までに生まれた子供から27年度の人数を紹介したが、素案は今年の2月に作ったので反映できなかったが、基本計画では年末なので27年度で確定する。中学生はその6年後、33年度推計まで確定できる。(6学年分→3学年分という対比から)小学校のブロック人数の半分くらいが中学生の人数となっていくので600人くらいで、26年度の中学生798人より少なく、増えることはあり得ない。現実的にこのような想定では、中学校も2校で望ましい学級数でクラス編成していきたい。説明会で皆さんの意見を聞いているが、4分の1を終え少なかったところもあるが、色々なチャンネルを通じ意見を聞くようにしたい。こういうやり取りだけではなく、文書で意見をもらうパブリックコメントを秋に行い、22年から地域の懇談会でもっと具体的な話し合いをする。場所も考えながらやっていきたい。今日は、PTAの役員が多いと思うが、一般会員にも説明の機会を作ってほしいということがあれば、その場に出向いて近い距離で話したい。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
桜町中		<p>心を育てる教育についてだが、あおばとプラン、今年度からの「推進計画(二次計画)」でも「心豊かに」を最初に持ってきた。各学校でも、確かな学力、豊かな心、健やかな体の3つをバランスよく育むことを重点目標にしている。統合の中で、地域に根ざした教育に変わらない。ふるさと教育も盛り込み、地域の良さをしっかり見つめることに取り組んでもらっている。小規模校ではできない複数教師が協力し、様々な学習形態が可能になり、子供が個別指導に加え、グループ指導、習熟度別指導、課題別指導など、多様に取り入れることができ、心を育てるという以外にも、様々な子供たちとの出会いの中で、心を育むことを大切にしていきたい。</p> <hr/> <p>広報6月号に21年度から5年間の教育の進め方(推進計画)を載せる。暗い事件が報じられるこのような時代だからこそ、豊かな心を育むことは学力以上に大事だ。</p>
	<p>2 児童数の減少で学校数も減ることは仕方ないこと。学校は地域のランドマーク的な建物で、避難所にも指定されている。多くの学校が再利用や活用の見通しがなくまま廃止されると広大な空き地となり、犯罪の温床となることや避難所としていざという時に使えない懸念があるが。</p>	<p>ここ20年の跡利用で、桃内小は町会の会館。堺小は高等看護学院やシルバー人材センター、それと地域の町会活動スペース。住吉中は双葉中。東山中は教委庁舎と子ども発達支援センター、体育館夜間開放。石山中は外見で何も使われていないように見えるが、博物館と埋蔵文化財の収蔵庫。今までは閉校が決まってから跡利用を考えたが、今回は市内全域41校が対象。中心部は(あまり)影響ないが、銭函地区、塩谷・長橋地区は学校間距離が離れていて、避難所をどうするかという話は当然出る。素案8P⑦にあるように、今回は廃校が決まった後で考えることにはならない。(再編で)空いたところをどうするか議論は、来年から地区単位の計画作りで突っ込んだ話をする。町会での活用も含めて考える。</p>
	<p>3 朝里地区ではどの学校(が再編の結果閉校となる対象)の可能性が高いのか。</p>	<p>(今の段階で)答えられない。素案の考え方は、子供の数が減り、古い学校が増えていく。41校を今までと同じように建て替えていくことはどうなのかということだ。そういう中で再編を行う。6つのブロックの中でも子供の数や学校の古さなど急ぐブロックがあり、朝里地区は後期としている。今(の段階で協議すること)はそこまでで、どこがどうというのは次の段階。(このブロックの中学校)3校の中で古さ、新しさは(検討の)大きな要素だが、生徒の通いやすさということも(要素の一つとして)ある。中心部では半分くらいになるので小学校との関係で通学区域の線引きという要素も出る。教育委員会だけでは決められない。青写真は持たないが、(検討すべき)要件はいくつかあるので、来年度からの懇談の時に整理して話していきたい。</p>

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
桜町中		<p>12P④が統合学校の場所の考えた。市内全体に共通することだが、「その際には」として、「交通の利便性や冬期の除雪体制」に触れた。3校あればその真ん中が一番良いという考えだけではない。通学距離が長くなり、中学生で路線バス利用となると、その交通の利便性、バス停はどうかを考えなければならない。冬の雪のことも大事なことだ。ベースは子供の数だが、今年の「基本的な考え方」で中学校はH32年度推計を出した。桜町中学校は大きな変化はないが、朝里中や望洋台中は減る。望洋台は新しい住宅地で世代のサイクルや造成工区の動向も見極めなければならない。この地区は、市内全体から見れば若い町なので人口の動きをもう少し見て、具体的に考えるのは後期となる。</p>	
	<p>4 ドーナツ化現象が進んでいるのに、(小規模になってもおかしくない) 菁園中は違う。他校区から移っていくと他校生徒が減る。</p>	<p>菁園中は学校指定変更の希望が多い。中心部のため親の勤務先の関係、部活の有無、隣接校との通学遠近などの理由だ。桜町中でも望洋台中に10数人変更している。教育委員会はそれらの申請の妥当性を判断しているが、菁園中が多いのは事実です。</p> <p>中心部で9学級は菁園だけで他は6学級。最大の理由は住吉中と東山中の統廃合の受入れ校として校区が広がったこと。それと先の説明の中心部にあること。指定校変更の例では(生徒数の面で)特別支援学級在籍も一定いる。</p>	
望洋台中	<p>1 小学校と中学校をまとめて統合する場合、小学校敷地を中学校で使うという考えもあるか。</p>	<p>中学校2校あれば、どちらかに寄せて使うというのが今までの使い方だったが、ブロック内の学校位置のバランスも考えて、再編の結果小学校と中学校を転換し、校舎を改造して再配置ということもあると思う。</p>	
	<p>2 南小樽ブロックでは、若竹小は桜小へ行く子も出るか。それともあくまでもブロック内で行うのか。</p>	<p>子供の数を見ていくために、地理的、地勢的、生活圏から6つのブロックに分けた。しかし、ブロック間に学校があるところもある。一律に南小樽地区だから無理やり通学区域をはめ込むことにはならない。再編を考えるスタートはブロック単位だが、そのあとの通学区域は地域、保護者を交えた話し合いだ。今回の基本計画は全体の枠組みを決めるもので、具体的に通学区域や統合の組合せ、小中の転換については、次の実施計画でのブロックの中での話し合いになる。</p>	
	<p>3 豊倉小は、独特な教育に取り組んでいるが、そういう特徴を山村留学などを取り入れ続けていく考えはないか。</p>	<p>基本計画では望ましい規模の中で、クラス替えや複数学級での教育活動の展開の素地を作ろうというのを基本にしている。豊倉小での教育活動については教委も支援している。他の学校も、大きい、小さいは別として努力しており、基本計画の中で別の制度(山村留学)というものはない。今後の話し合いでは、ブロックの中で、ある学校の良さを他の学校に引き継いでいく観点で再編を考えたい。</p>	
	<p>4 統合となると、ここは地形が特殊なので歩いて通うのは難しい。スクールバス運行時の間隔や部活はどうなるのか。</p>	<p>統合で通学区域が広くなり、通学距離も長くなる。徒歩で通えない場合も出る。素案8P⑧で、今回の再編に当たり今の通学バスやスクールバスでの対応を考える。現在でも400人位の子供がバス利用しているが、そういう前提だ。</p>	

朝里ブロック

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
望洋台中	5	中学校は9学級以上とあるが、1学年2学級でも良いのではないか。	<p>今の学習活動は能動的になる傾向で、自ら学び調べるなど、子供一人ひとりの関心、課題や学習スタイルに応じて多様な学習形態を求められている。その中で、個に応じた教育活動の展開のため、グループ指導、課題別学習など多様な学習形態を取り入れられる規模があった方がよい。</p> <p>中9学級、小12学級とした違いだが、中の教員配置基準では6学級で校長、教頭を除くと9人。9学級では14人で、9教科の授業時数が多い5教科で2人が可能。専門の先生の数からそれが最低基準で、9学級が下限とした。</p>
朝里中 5月15日	1	朝里地区は前期の該当ではないので、H30年以降の計画決定となるのか。また、前期の該当でなくても耐震工事は進めていくのか。	<p>市内を6ブロックに分け、前期に検討を急ぐところとそれ以外という区分けをした。この地区は後期で検討すると位置づけた。</p> <p>耐震について説明する。一定の基準で5校の耐震診断を行い、朝里中はIs値0.34で5校で一番低い数値になった。今後は実施設計のあと補強工事になるが、予算化された時点で、学校、場合により保護者と協議しながら工法、時期を決める。質問に戻るが、学校再編の問題はあるも、(耐震診断を終えた学校は)実施設計、補強工事をする前提で、できるだけ早く進める。</p>
	2	豊倉小は29年度まで現状どおりということか。	朝里地区の学校再編ということなので、再編後の3校がどの学校になるかは、後期の検討になるが、特定の学校がなくなる、残るという発想ではありません。
	3	推計の計算方法はどのようにしたか。	<p>生まれて6年後に入学することからH26年度の推計を使っている。社会動態の特性を捉えるコーホート法は、学校単位という小集団ではなじまないの、住民基本台帳上でその地区の学校に入学するスライドで考えている。実際の変化率も再編計画自体を変えることにはなっていない。</p> <p>去年の「基本的な考え方」の資料に21年度推計を出したが、今年の入学者で数名の違いだった。中学生は私立中学校に行くので50名ほど少なくなる。</p>
	4	他の会場で出た意見や去年の地域懇談会で出た意見を教えてほしい。	去年の地域懇談会での意見はホームページにアップしている。今回の説明会では、通学区域が広がることで生徒指導の問題、通学のバス利用、統合時期を明確にして準備に入ったほうがよいなどの意見が出ている。事前の学校間の情報交換、打合せ、スクールカウンセラー派遣の体制、バス助成制度について紹介した。